

III. 2027 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

救急災害医療学学位プログラム 博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願することがないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	---

救急災害医療学学位プログラム

（コース・50 音順）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 阿藤 聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学
	研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体
	運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループで確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。修士課程では研究に必要な実験技術の習得、研究分野を理解するための論文読解力、データの処理・理解、実験により取得したデータを考察して新規の知見として論文化する為の能力を身に付けることを目指します。
★★ 准教授 鴻崎 香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
	研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質、筋ジストロフィー、代謝、実験動物
	スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が骨格筋機能および構造へ及ぼす影響について、細胞・分子レベルで検証をおこないます。主に実験動物や培養細胞を用いた研究を展開していきます。研究テーマについては事前に相談した上で決定します。 研究によって得られる成果は、スポーツ現場や医療現場へ積極的に応用することを目指します。

教員名	研究指導領域
<p>★★ 教授 鈴木 健介 博士（医学）</p>	研究分野：救急医学、災害医学、病院前救急救命学
	研究内容のキーワード：仮想現実、学校における災害時の対応、学校における緊急時の対応、災害医療レジスティクス、ファーストレスポnder、データベース、熱中症
	<p>修士課程では、研究の基礎を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理を学ぶ ・先行研究を調べまとめる ・研究計画を作成し倫理委員会に研究計画を提出する ・パイロットスタディを実施する ・パイロットスタディの結果をまとめる ・研究計画を修正する ・研究計画を実行する ・統計学的な解析を行う ・結果をまとめ表や図を作成する ・考察をする ・学術論文を作成する ・抄録を作成する ・学術集会で発表する <p>以上の過程を、自ら実行し、研究者としての基礎を学ぶ。</p>
<p>★★ 教授 中澤 真弓 修士（健康科学） 修士（防災政策）</p>	研究分野：救急医療・救急医療政策・消防・防災
	研究内容のキーワード：救急救命士・救急医療・消防・防災・女性活躍
	<p>救急業務の社会問題解決を目指した救急医療政策及び防災政策についての研究を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心停止からの社会復帰率向上を目指した救急医療政策研究 ② 救急車の適時・適切な利用、需要対策についての検討 ③ 予防救急、Pre-ambulanceの検討 ④ 救急隊の効果的な活動方策 ⑤ Pre-hospitalにおける女性活躍推進
<p>★★ 准教授 成川 憲司 博士（救急災害医療学）</p>	研究分野：救急医療、心肺蘇生、救急車の需要対策、救急救命士の労務環境、医療過疎地域の対応
	研究内容のキーワード：救急救命士、ファーストレスポnder、心肺蘇生
	<p>救急領域における課題や問題点の抽出をデータによって示すとともに、研究結果を実装社会にまで落としこみ社会貢献することを目的とする。</p> <p>主に、以下の領域を想定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心肺停止からの社会復帰率を向上を目的とした <ul style="list-style-type: none"> ー教育的観点 ーレスポンス時間の短縮 ②地理的観点からの医療格差 ③医療過疎における急性期医療のあり方 ④救急救命士による地域社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ー病院内で働く救急救命士の意義など ⑤スポーツイベントにおけるファーストレスポnderの配置や対策

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 教授 橋本 典生 博士（医学）</p>	<p>研究分野：医学</p> <p>研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能</p> <p>慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。</p> <p>主な研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3系多価不飽和脂肪酸やn-6系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性
<p>★★★ 助教 原田 諭 博士（救急災害医療学）</p>	<p>研究分野：救急災害医療学、病院前救急医療</p> <p>研究内容のキーワード：救急現場活動、防災活動、教育（消防、救急）、Virtual reality</p> <p>救急・災害現場と教育研究の視点から研究の基礎を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①救急隊、消防隊の活動の分析と改善 ②地域防災、災害対応のあり方 ③消防・救急職員や学生の教育方法の検討 ④VRを活用した訓練、教育効果の検証 <p>これらのテーマを通じて、実践と教育の現場をつなぐ実証的な研究を進めています。特に、VRなどの最新技術を用いることで、従来の教育では困難だった実践的な学びや臨場感のある訓練を可能にし、より高い教育効果を目指しています。</p>
<p>★★★ 教授 増野 智彦 博士（医学）</p>	<p>研究分野：救急医学、外傷学、病院前救急医療システム、心肺蘇生、熱中症、災害医学</p> <p>研究内容のキーワード：ショック、蘇生、病態生理、病院前救急医療、災害対応、救急医療を通じた社会貢献</p> <p>病院前救急医療・救急外傷医療・災害医療の現状を分析し、抱える問題点を抽出するとともに、改善・解決のための方策を検討し、救急救命士の社会貢献、活躍の場の拡大につながる研究を行う。修士課程では上記を実践するための研究立案、実施可能な研究計画の策定方法を学ぶ。主に以下の領域のテーマにつき研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病院前救急医療に必要な知識・手技の効果的な教育・訓練方法 ②効果的な病院前救急活動、処置拡大 ③ショック、心肺停止時の病態生理および効果的な処置 ④熱中症の病態生理、予防・対処方法の社会啓発 ⑤スポーツ施設、マスコギャザリング会場での効果的な救護 ⑥災害時に効果的活動を行うための教育・準備 ⑦救急救命士の職務・職域の拡大
<p>★★★ 准教授 山田 真吏奈 博士（医学）</p>	<p>研究分野：医歯薬学、教育工学</p> <p>研究内容のキーワード：神経炎症、免疫異常、免疫老化</p> <p>災害や救急の現場で発症する重篤な疾患を対象に、免疫の暴走が脳や臓器にどのような影響を及ぼすのか、特に、加齢に伴う変化に焦点を当てています。</p> <p>主な研究領域</p> <ol style="list-style-type: none"> ①熱中症・敗血症の病態生理 ②免疫異常と神経障害のメカニズム ③加齢と免疫老化 <p>免疫や神経の仕組みに興味がある方、基礎から臨床応用まで幅広く学びたい方を歓迎します。</p>